

資料 1

平成 27 年 3 月 12 日
環境市民会議資料
環境部環境政策課

第四期環境基本計画における重点項目とその方向性（事務局案）

第 2 回環境市民会議（2 月 12 日開催）等の議論を踏まえ、第四期計画期間内に重点的に取り組むべき項目とその方向性について、事務局で整理を行った。

この方向性については、5 月末に予定している中間まとめに反映させる。

◆環境情報の内容と情報の受発信手法を見直し、分かりやすい情報提供を行う。

- ・これまでの表面的な物事の現象面の情報にとどまらず、根源を意識した情報が求められている。このことから情報の内容・質にこだわった一元的な情報提供や、啓発プログラムの体系化を図る。
- ・今後整備する（仮称）エコプラザや既存ストック（学校、市関連施設等）を活用し、子どもから大人まで全市民的な環境学習を一層推進する。
- ・各主体・各階層の活動の継続と連携の強化を図り、各主体の自発的な行動等を促進する。

◆水素社会を見据え、エネルギーの地産地消都市を創造する。

- ・既存ストック（学校太陽光（熱）、防災井戸、災害対策用井戸など）を組み合わせ、効果的、効率的に活用する。
- ・未利用エネルギー（温度差利用、熱利用等）を積極的に活用する。
- ・これまで実施している、省エネ・創エネの推進、効率化利用（HEMS 活用等）を着実に推進する。
- ・水素社会を見据え、国や都などで進んでいる検討状況を注視し、適切な時期に市としての対応の方向性（ビジョン）を策定する。

◆地球環境を展望し、緑と水に配慮したまちづくりを一層推進する。

- ・井の頭恩賜公園の開園 100 周年（平成 29 年）を一つの象徴と捉え、緑や水環境など身近な環境が地球規模の環境に直結していることを意識した、本市らしいまちづくりを推進する。
- ・市民、事業者、行政等が一体となってこれまで培ってきた都市イメージを継承し、緑の質・量の確保、まちの景観・美観、自然環境・生物多様性等にも配慮した、快適な都市空間を創造する。
- ・ヒートアイランドの緩和、水道水としての地下水利用、雨水浸透の推進、井の頭池の湧水復活等、水循環の重要性を意識した水循環都市の構築を目指す。